

[成果情報名] シャンパン台ビワ「なつたより」若齢樹の新梢管理法

[要約] シャンパン実生を台木としたビワ「なつたより」の若齢樹では枝数を3本残す新梢管理（芽カキ）により、単位面積および単位容積当たりの枝数が早期に確保でき、新梢の枝伸長を抑制できる。また、着房率は新梢を1本または2本残す枝管理と同様である。

[キーワード] ビワ、なつたより、シャンパン、新梢管理、芽カキ

[担当] 長崎県農林技術開発センター・果樹研究部門・ビワ落葉果樹研究室

[連絡先] (代表) 0957-55-8740

[区分] 果樹

[分類] 指導

[作成年度] 2013 年度

[背景・ねらい]

シャンパン実生を台木としたビワ「なつたより」は、樹勢が強く枝伸長が旺盛なため、栽培に取り組む生産者及び技術者から若齢期の枝管理法について早期の解決法が求められている。そこで、新梢発生後に実施する新梢管理（芽カキ）により枝の伸長が抑制できないかを検討する。

[成果の内容・特徴]

1. シャンパン台ビワ「なつたより」の若齢樹において、枝数を3本残す新梢管理（芽カキ）は、1本残す新梢管理よりも樹容積は大きく、単位面積および単位容積当たりの枝数が多い（表1）。
2. 枝数を3本残す新梢管理（芽カキ）は、1本残す新梢管理より中心枝、副梢および果痕枝の枝長が短い（表2）。
3. 新梢管理（芽カキ）で残す枝数に関係なく、着房率は同等である（表2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 調査樹は2010年春に1年生苗を25リットル鉢で6ヶ月間育苗し、大苗を定植した。
2. 芽カキ処理は2012年6月18日、2013年6月24日に実施した。
3. 適期の適正施肥を実施し、充実した樹体とすることで、新梢を多く発生させることが重要である。
4. 今回紹介した新梢管理については、未結果樹の中心枝を対象とした調査であるため、苗木定植後の未結果期間及び本格的な結実開始翌年までに効果的な枝管理技術である。

[具体的データ]

表1 シャンパン台「なつたより」若齢樹の新梢管理の違いと樹容積および枝数 (2012-2013)

処理年度	樹齢	新梢管理 ^z 処理程度	樹幅 (m)	樹高 (m)	樹冠占有 面積 (m ²)	樹容積 ^y (m ³)	枝数	
							(本/m ²)	(本/m ³)
2012	3年生	1本	2.4	2.5	4.5	3.7	8.8	10.8
		2本	2.6	2.9	5.5	5.3	12.4	13.2
		3本	2.5	2.7	5.1	4.5	15.1	17.0
2013	4年生	1本	3.3	3.3	8.6	9.3	12.6	11.6
		2本	3.6	3.5	10.2	11.9	18.9	16.4
		3本	3.5	3.3	9.5	10.6	20.9	19.4

^z 新梢管理(芽カキ)時に残した副梢および果痕枝の枝数

^y (樹幅/2)²×樹高×π×1/3

表2 シャンパン台「なつたより」若齢樹の新梢管理の違いと枝長及び着房率 (2012-2013)

新梢管理 ^z 処理程度	2012年(3年生樹)			2013年(4年生樹)		
	枝長 ^y (cm)		着房率 ^x (%)	枝長 ^w (cm)		着房率 ^v (%)
	中心枝	副梢		中心枝	果痕枝	
1本	25.3a ^u	29.8a	74.5	40.3a	23.3a	63.2
2本	26.2a	29.4a	64.5	36.9b	21.7a	62.5
3本	20.2b	26.1b	71.9	30.0c	15.0b	60.2

^z 新梢管理(芽カキ)時に残した副梢および果痕枝の枝数

^y 2012年11月に中心枝および副梢の発生基部から枝先までを測定

^x 2012年12月に調査、中心枝および副梢に対する割合

^w 2013年11月に中心枝および果痕枝の発生基部から枝先までを測定

^v 2013年12月に調査、中心枝および果痕枝に対する割合

^u 縦の異なる文字間にはTukey多重検定により5%レベルで有意差有り

[その他]

研究課題名 : ビワ新品種「なつたより」若齢樹の安定生産技術の確立
 予算区分 : 県単
 研究期間 : 2011~2013年度
 研究担当者 : 松浦正